

水路部創立120周年記念号の 刊行に当たって

海上保安庁水路部長 岩淵義郎

水路部は明治4年(1871年)9月12日に兵部省海軍部に水路局として設立され、本年、創立120周年を迎えました。これを記念して、水路部研究報告第28号を記念号として刊行することにしました。

水路部はその創立以来、一貫して海図等の水路図誌の作成に携わってきましたが、今日では海上交通の安全に係わる業務はもちろん、管轄海域の確定、海洋の開発・利用、防災、環境保全への対応など多方面に亘ってきました。これらの業務の実施に当たっては、その時々最新の技術を導入し、あるいは自ら開発改良を行って業務を発展させてきました。

この10年間には、水路部組織の大改正、国連海洋法条約への対応、測量船「拓洋」、「天洋」、「明洋」の代替え近代化などがありました。この間には人工衛星レーザー測距装置、ナローマルチビーム測深機、サイドスキャンソナー、ADCP、アルゴス漂流ブイ、衛星画像受信装置、バットフィッシュ等の最新機器、海図作成工程へのコンピュータシステムの導入等を行い、業務を一段と発展させてまいりました。

本記念号では水路業務の技術に関する将来展望、本州南方海域の50万分の1大陸棚調査成果、20万分の1の大陸棚の海の基本図調査成果等による対馬～五島列島周辺海域の地質、5万分の1沿岸の海の基本図調査成果等による瀬戸内海の高差地形、気圧変動と対馬暖流の関係に関する考察、人工衛星ドップラー観測による離島位置の決定、雲仙岳噴火に伴う橘湾・島原湾の調査速報など11編を特集することにしました。

水路業務の遂行にとり、また高度技術に裏打された海洋調査・情報提供機関を目指す水路部にとり、調査や情報処理のための技術の研究・開発、調査成果の解析等は極めて重要な仕事です。

このため、今後とも部内の研究・技術開発体制を強化し、水路部研究報告の内容を、一層充実したものにしてまいりたいと考えています。

水路部は今後とも社会のニーズに応じて業務を推進していく所存ですので、皆様の一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(平成3年10月)